

2020年度 学校関係者評価委員会 議事録

YIC リハビリテーション大学校 会議室

2020年10月26日 15:00~16:30

出席者

(委員) 鹿取寿美, 金井和明, 信久美佐子, 綿谷昌明,

(学校:事務局) 乾校長, 藤井副校長, 渡辺校務主事, 加藤教務主事, 島本理学療法学科長,

石丸作業療法学科長, 上原委員

1. 校長挨拶 (乾校長)

2. 委員紹介 (藤井副校長)

3. 定足数の確認, 委員長の選出 (上原)

定足数確認. 委員 14名, うち2名の委員 (地元企業関係者 宮内順子委員, 白川 剛委員) が欠席.
既定の過半数を超えるため, 本会議は成立する.

委員長に信久委員, 副委員長に綿谷委員を推薦. 全員の賛同により承認された.

4. 議事 (信久委員長, 綿谷副委員長)

(1) 2019年度自己点検評価結果について (上原)

多くの項目はこれまでの実績を踏襲し取り組んだ.

2018年度から評価 (◎○×) を上げた項目, 下げた項目について説明.

・評価を上げた項目

①「非常勤講師との定期的な情報交換を図っているか. (ミーティング・報告書・教務日誌等)」

: 2020年度, 新カリキュラムを導入するため, 今年度分は実施期間を2019年9月へ変更した.

・評価を上げた項目

①建学の精神・教育理念・教育目標 教育課程

カリキュラムポリシー, カリキュラムマップの作成により, 明確となった.

上記に準じた項目も取り組むべきことがより明確となった.

②教育課程

カリキュラムポリシー, カリキュラムマップの作成により, 明確となった.

上記に準じた項目も取り組むべきことがより明確となった.

※①②とも昨年度よりより充実したものとして評価項目を上げるものとした.

・評価を下げた項目

①教育の内容

「結果に基づく授業参観を実施しているか」「結果に基づく教員のレポート報告書・改善計画書等
が作成されているか」

教職員全員の授業参観を実施しなかったため, それに基づく教員レポート等作成されなかった.

(2) 2019 年度 学科報告 (石丸・島本)

石丸：昨年度 11 名の卒業生が全員国家試験を受験し、合格率は厳しく全国平均を少し下回ったが、ほぼ全国平均並みであった (全国 94.1%, 本校 91%)。

就職率は国家試験合格者全員就職し 100%。卒業者に試験占める就職者の割合は 91%であった。中途退学者は 3 名、中退率は 6%であった。

2019 年 4 月 1 日在學生は 50 名、2020 年 3 月 31 日は 47 名であった。

島本：国家試験合格率は 82.1%。受験者は現役生 28 名既卒者 2 名の 30 名であった。うち 25 名が合格となった。就職率は 100%であった。国家試験不合格者は次回に向けて努力している。

中途退学者は 1 名で、例年に比し中途退学が少なかった。

2019 年 4 月在籍者は 116 名、2020 年 3 月 31 日は 114 名であった。

・質疑応答

綿谷委員：OT 学科について、県内養成校は 2 校であるが、県内の求人状況はいかがか。

石丸委員：正確な数を把握していないが 50~60 はあったと思う。

綿谷委員：地域のニーズにこたえることが求められると思うが、そのあたりはどうだったか。

石丸委員：学生数が少ないため、応えきれていなかった。

綿谷委員：入学者等学生数は自己点検評価への反映はないか。

石丸委員：OT 学科はほとんどの学校で定員割れ、かつ大学志向が増えているのではないか。今年度の入学生は 20 名程度で年度によってばらつきがある。なぜそのようなことが生じるのか分析しきれていない。

上原：自己点検のほうでは教育目標の達成度と教育効果の項目で、各学科の就職に関する項目がある。指導はしているがご指摘の内容までは検討できていない。

信久委員：中途退学者の内訳はどのようになっているか。

石丸委員：1 年生が 1 名、2 年生が 2 名となっている。2 名のうち 1 名は休学ののちの退学となっている。

金井委員：国家試験の合格率に関して、自分自身は 1 期生であるが全員が国家試験を受験した。国家試験対策瀬は模擬試験等行っていると思うが、国家試験の合格率を上げるために、模擬試験の点数でふりかけのようなことはあるか。ふりかけをせず全員受験した状態での結果なのかを教えてほしい。

藤井委員：全員受験させている。卒業見込みの要件を満たすものは受験させている。1 期生のころから変わらない。

(3) 2019 年度 重点項目の取り組みについて (検証)

・重点項目① 国家試験合格率 100%達成 (石丸)

4 年生へはまず解剖生理運動学及び 3 点問題の理解後を向上させるよう取り組んだ。合格可能性検定試験 (学内模試) をそのように作成した。昨年度と比較すると 3 点問題では 10~20 ポイント向上した。ただし不合格の学生では、正答率が低かった。

Classi を活用し、いつでもどこでも学習できるようにと考えていたが、実施率 20%であった。強制力を持つものではないため低い結果になったと考える。

業者模試は、種類を増やし様々な問題に接する機会となった。

1年生から3年生への対応では早くから国家試験に触れておく必要があるということで、対策をしている。1年生は国家試験対策基礎講座を行った。

春、秋の2回、基礎の問題について全校統一学力確認試験を実施した。

外部の行使に対しては、国家試験の内容を伝え授業に取り入れていただくようお願いした。

1年生～3年制も4年生同様にclassiを活用したが、やはり実施率は低かった。

国家試験合格率については学科報告の通りである。

今後の課題としては、伸び悩む学生は基礎知識が不足しており、早期からの関りが必要である。また、4年生の国家試験対策は例年10月から行うが、4年次の4月早々または3年次から実施することを計画している。

・重点項目② 学生募集（久賀）

学校認知度の向上に対してSNSの活用、夏休みの小学生イベント等の地域貢献事業を実施した。twitter, FB, HPへの定期的な情報発信・更新により、HP訪問数は10月末時点で前年比109%、2月末では111.9%、3月末では115.5%となった。この結果を踏まえ広告等をこまめに更新し、今年度の現時点では8,000件を超える訪問数となっている。夏休みの小学生イベント等の地域貢献事業は順調に実施された。

卒業生の把握として同窓会との連携は、今後の検討材料となった。

教員の社会貢献度向上では、体制の構築が未整備であり、社会貢献の向上とまでいかなかった。ただし、活動した内容はHP等で紹介している。

今後の課題はHPの閲覧者数を増やすよう取り組みを進めている。現在、閲覧者数は増加しており、直帰率（すぐに離脱する率）が少なく、閲覧時間も長くなっている。これらが出願やOCへの参加につながる事が大切であり、今後の課題でもある。卒業生の把握のため同窓会との連携等具体的な策を考えたい。教員の社会貢献活動については、年間を通した活動計画に基づき、体制を整備する必要がある。新型コロナウイルスのことがあり、様々な行事が行われていない状況にあり、今後の課題とした。現在は4月5月とも自粛、Web相談も実施しているが、希望される高校生が少ない状況である。1対1の対面であることが理由なのか、希望者がいない。動画等の作成にも着手しておりそれらを進めていきたい。卒業生、地域との連携も進めたい。

・重点項目③初年次教育の定着（加藤）

初年次教育であるため1年生への教育であるが、4年次での国家試験合格に向けてという目標で取り組んだ。ノートの取り方や勉強の仕方を講義した。週1回国家試験基礎講座を実施した。また国家試験問題を解いていくという取り組みを行っている。国家試験問題が学生のスマートフォンに毎回20問、前期は週3回、後期は週5回配信され、各自で取り組んでもらった。Classiというアプリを使用している。達成状況は、Classiの実施率が年間を通して低下し続けた。実施するように学生に促すこともしたが、それだけでは難しかった。まとめとして、初年次教育は引き続き行っていくことであるため、後ほど説明するが、学生の学習が進むように工夫を行う必要がある。

・質疑応答

信久委員：学生募集について、当校のFBを見ているが、いろいろな情報があると感じている。今の学生

さんは、情報が手元にくれば見るという感じと思うので、FB はとてもいいと思う。HP も見ているが、リニューアルしブラッシュアップされた印象である。卒業生が就職した後どのように働いているのかなど、いろいろな分野での卒業生の言葉が見えるとより良いのではないか。

久賀委員：現在、4名の卒業生の言葉をつい最近 HP へ入れた。そこをどんどんブラッシュアップしていきたい。

綿谷委員：PT の新入生は何人いるか。

久賀委員：27名。

綿谷委員：最近では OC に来た人が受験しているという傾向か。

久賀委員：そうです。

綿谷委員：以前はそのように受験の形態でなかったけれど、最近の学生の傾向なのか。

藤井委員：高校で「必ず行って見てきなさい」と指導しているようである。何度も参加する高校生もいる。

綿谷委員：足を運んでもらうということが受験につながるということだろう。

(3) 2019 年度 重点項目の取り組みについて

- ・重点項目①国家試験合格率 100%達成 国家試験対策の充実（加藤）
- ・初年次教育の充実（加藤）
- ・OSCE の計画的な実施（加藤）
- ・入学者増（藤井）

4. その他（上原）

(1) 学校の年間予定について

(2) 学校パンフレット・募集要項・年報について

以上
議事録作成者
上原奈緒子